「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」の拠点

福岡市認知症フレンドリーセンター

福岡県福岡市認知症支援課

地域共生社会に関する取組

高齢者 / 子ども / 若者 / 地域住民 / 障害者 / 生活困窮者 / 認知症の方 / その他

基礎情報		
	人口（R7.1月時点）	1,608,140人
	高齢化率（R7.1月時点）	29.0%
	要介護認定率（R7.1月時点）	20.8%
	取組の予算規模（年間）	約8,900万円

詳細はHPから

https://dementia-friendly-center.city.fukuoka.lg.jp/

取組概要

- 福岡市認知症フレンドリーセンターは、認知症になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちを目指す「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」の拠点施設として令和5年9月に設立された。
- 認知症本人やその家族に限らず、地域の方、医療・介護・福祉関係者や認知症に興味がある方の誰でも自由に訪れることができる場所となっており、認知症について学び、認知症本人の視点に立った疑似体験ができる機会を提供している。

背景・きっかけ

- 福岡市認知症フレンドリーシティ・プロジェクトを推進するための拠点施設として、市民の認知症に対する意識を変え、当事者や家族が安心して暮らせる環境づくりを加速させるために開設した。

取組の経緯

- 福岡市が進めていた認知症フレンドリーシティ・プロジェクトの施策を包括的に実施できるように工夫しながら取組を進めている。特に、認知症当事者の活躍の場としても活用できるようにし、当事者による情報発信を行うことで、他自治体などの関心を高めることに寄与している。
- 令和6年9月からは、若年性認知症支援コーディネーターを配置し、専門的な相談対応と他機関連携を強化したことで支援機能が拡充している。



展示室の様子



セミナー室の様子

福岡市認知症フレンドリーセンター
福岡県福岡市

取組詳細

- **取組内容**
  - ✓ 当事者活躍の場の提供
  - ✓ 講座・体験の実施
  - ✓ 交流・相談の実施
  - ✓ 情報発信（センター公式ウェブサイト、SNS、メディア取材対応、広報誌への掲載、関係機関向けパンフレット等）など
- **実施体制**
  - ✓ 主体（事業統括・運営管理）：福岡市福祉局ユマニチュード推進部認知症支援課
  - ✓ 連携先（相談連携、人材育成、普及啓発協力、イベント、当事者の活躍の場創出等）：地域包括支援センター、地域の介護事業所、医療機関、大学、企業（オレンジパートナーズ、就労支援）等
- **財源**
  - ✓ 市の事業費（約6,000万円）、国庫補助金（約2,900万円）（R7年）

成果

- 定量面：
  - 総来館者数が予想を大幅に上回り、2年間で約17,000人（当初想定は年間約1,000人）に達した。市民の高い関心と潜在的なニーズが明確になった。
- 定性面：
  - センターをきっかけに、地域での認知症に関する対話や新たなコミュニティ形成が生まれ始め、市民が主体的にケアに参加する意識が芽生え始めている。
  - 認知症に対する市民の意識変容は進み、当事者の活躍の場も増えている。

今後の展望

- 地域全体への普及や医療・介護体制との有機的な連携を強化するために、継続的な取組と地域の協力を喚起する働きかけが必要となっているため、今後も継続して取組を進め、認知症に対する正しい理解の促進などに努める。

取組のポイント

- **多様な情報発信の実施**

センター公式ウェブサイトやSNS（Instagram、Facebook）、メディア取材対応、広報誌への掲載、関係機関向けパンフレット等、様々な手法で情報発信を行うことで、取組の周知に努めている。



Instagramを活用した情報発信